

「明徳高卒業後は、
「東都リーグ」の専修大に進
み、1年から4番三塁手で起用
してもらいました。プロ希望で
したが、ドラフトで指名されな
かつた。社会人野球で18社から
誘いを受け、一番最初に声をか
けてもらった明治生命（当時）
に入りました」

かれた社会人野球のJABA。四国大会。16チームの中に、明治安田生命（東京）の監督としてユニホームをまとった岡村憲一さん（47）が四万十市出身。身IIの姿があった。松井ら敬遠で騒動となつた3年前の夏の甲子園、県代表の明徳義塾で背番号1を背負い、4番打者を任せられていた。監督として2年目を迎えた岡村さんは、これまでの野球人生を振り返りながら、今後の抱負などを聞いた。

岡村憲二・明治安田生命監督(明徳高出身)

“松井5敬遠”時の背番号1



JABA四国大会は4強で惜敗。「今年は都市対抗日本選手権へ絶対に出場する」と意気込む明治安田生命・岡村憲一監督(高知市のよひこ)「(ドーム)

おかむら・けんじ 四万十市出身。市立中村中3年の時、県中学野球選手権準優勝。決勝で敗れた明徳義塾中の選手に誘われ明徳高へ。高校2、3年で夏の甲子園出場。専修大を経て、1997年、明治安田生命(当時は明治生命)に入社。以後、野球部に14年間所属。2021年から監督。埼玉県鴻巣市在住。妻、高校生の長男、小学生の長女と4人暮らし。

星稜戦は人生の宝物

はシタツクスの補強選手として
都市対抗に出て、本塁打も打つ
た。『さあドーフト』って思いま
したが、指名されず。そんな繰
り返しで3年が過ぎ、25歳の時
に諦めました」
「その後は。

——明徳時代を振り返つて。
「自分たちは甲子園に行ける
ようなレベルではなく、猛練習
でつくり上げたチームだつた。
當時馬淵さんも若く、ノックは
すさまじかつた。ただ、最後の
夏の県大会は『こんなに練習し
たんだから負けるはない』と
いう団体になつてしまつた」
——30年前の星稜戦、右肘痛で
登板がなかつた。もし、自分が
そのままじかつた。ただ、最後の
その間は一生懸命仕事をしよう
と。今、ユニホームを着ること
ができる本当に幸せです」
——監督就任を報告した時、恩

師の馬淵史郎監督は、
「選手をよく見ろ」と一発目
に言われました。性格をよく見
て、それぞれの良さを分かつた
上で選手起用できる監督になれ
と。最高のはなむけの言葉でし

〔昨年は都内対抗、日本選手権とも地区代表決定戦で敗れ、出場を逃した。今年は何としても勝たせてやりたい。日本一を目指して指導します〕

—野球に打ち込む郷土の後輩にエールを。

「とにかく野球を一番好きになつて、没頭してほしい。『野球が大好き』が自分の原点なんです。高知にいる明徳時代のチームメートも今回、応援に来てくださいました。苦楽と共にした仲間は本当にいいものです」

「監督として馬淵采配を意識している」ところはあるか。

「高校時代『勝つ確率の高い野球を』と常に話され、そのために何をすべきかを具体的に教えてくれた。守って勝つ馬淵采配は理想。少しでも近づきたいい。ただ、5敗退を選択する度胸は僕にはないかな」

万全でマウンドに立つていたら、馬淵監督の戦法（5敬遠）もなかつたと思わないか。

「それはまったく考えたことがないし、それを聞かれたのも初めて。皆、気を使つてくれてたんでしょうか。当時、監督は『俺についてきたら勝てる』と言つていたし、皆、そう思つていた。僕自身、星稜戦の話を振られることは全然嫌ではない。野球は一人では勝てない。あの試合は人生の宝物なんです」

4月15日、高知新聞より